

沖縄県の空手振興施策

現在、県は沖縄空手振興ビジョンに基づき、沖縄空手世界大会や空手の日イベントの開催。国内外への指導者派遣、県内外での普及促進、企画展示、空手アカデミー（文化講座）等を実施しています。

沖縄空手は、礼節を重んじ平和を希求する精神性や精緻な技・型が子弟間で継承されるとともに、綱曳やハーリー等の伝統行事、学校行事、祭礼行事等でも披露され、県民の生活に深く溶け込

んでいます。また、366^(※1)の空手道場は、礼儀作法を学び、国籍や世代を超えて交流する場として地域社会に定着しました。沖縄空手がユネスコ無形文化財保護条約の「世代から世代へと引き継がれ、絶え間なく再現されることで、その担い手たちの社会ではアイデンティティや歴史的繋がりが確認できるもの^(※2)」に合致する貴重な文化と考え、ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組みを行なっています。

※1 2022年沖縄県空手振興課調べ

※2 出典：独立行政法人国立文化財機構（IRC）

沖縄空手振興ビジョン、ロードマップの策定

- 沖縄が世界に誇る伝統文化である空手の保存・継承・発展を図る取組を戦略的に展開するため、県、空手関係団体、経済界等の様々な分野が一体となって、20年後のめざすべき将来像を描いた「沖縄空手振興ビジョン」を2018(平成30)年3月に策定しました。
- ビジョンで定めた3つの将来像の実現に向けて、その具体的な工程等となる「沖縄空手振興ビジョンロードマップ」を策定し、関係機関が密な連携を図り認識を共有しながら、各種施策を計画的かつ能率的に推進します。

〈3つの将来像〉

- 【保存・継承】 空手に秘められた精緻な技と平和を希求し礼節を重んじる精神性が正しく次世代に受け継がれている。
- 【普及・啓発】 空手を取り巻く環境変化を的確に捉えた施策展開により世界の空手家が「空手発祥の地・沖縄」を認識。
- 【振興・発展】 空手家が豊かな人生を歩む「空手の聖地・沖縄」が確立されて空手による産業振興が図られている。

〈3つの将来像〉

沖縄空手
振興ビジョン
(2018年度～2037年度)

沖縄空手振興ビジョン
ロードマップ
(第1期：2018年度～2022年度)
(第2期：2023年度～2027年度)

〈施策〉

- 主要施策と施策項目で構成
- 施策項目ごとに年度別の具体的な取組内容を示し、成果目標を設定
- PDCA等による進捗管理を実施